

牧師所感：ノーベル平和賞受賞を祝す

—被団協（日本原水爆被害者団体協議会）—

筆者のみではなく、全世界の人々が、ロシアとウクライナの戦争が1日も早く終結するようにと、真心から祈願していた。ところがその願いもむなしく、またもやイスラエルとハマスの戦争が勃発した。

ロシアとウクライナの戦争は沢山の無実な人々を死に追いやった。死者の中には幼い子どもたちが大勢犠牲になり私共の心を悲しみがえぐった。

そのような悲しみの内に、またイスラエルの反撃によりガザの夥しい数の子どもたちの死が報じられた。映像で見る子どもたちの死、絶望に打ちひしがれる親、親、親、皆が無念。

ところが戦争が長引くにつれ、力のある国はしきりに、核兵器を使うようなそぶりを見せる。本当に使うだろうか？ 本当かも知れぬ。気が狂えば…。今北朝鮮は南の韓国を同胞ではなく、敵国だと心高らかに宣言している。あゝ核兵器の恐ろしさよ。

だが世界は正しい良心を持つ指導者もいて、核兵器を使えば人類は滅びることを世界に向けてアピールした。

その人とはノーベル委員会の判断の裏側には、39才の新委員長の存在があった。ヨルゲン・ワトネ・フリドネス氏（朝日新聞）。

以上のような世界の終末を思わせられる時に、日本国の被団協（日本原水爆被害者団体協議会）にノーベル賞授与は英断である。被団協発足以来50年ぶりにノーベル賞で報われたことを祝す！！